

第5回寄居町議会議員報酬検討委員会の内容

開催日：令和7年8月19日

議題：議員報酬の改定について

開催場所：寄居町役場全員協議会室

出席者：議員報酬検討委員会委員 13名

議員報酬の改定について意見を聞きました。委員の意見は下記のとおりです。

【議員報酬について】

・報酬を変えていくことが議員候補を増やす一助になるのではないかということは考えている。資料にその根拠的なものがもう既に出てる。議員報酬が23万2000円になると議会活動は93日ということになる。そうすると、議員は99日働いているから上げても不思議ではない。ただ町民が納得できる説明がないといけない。議会費の割合は町の総予算の1%というのが町村では多かった。1%というのは変えない方がよい。1%におさえる方法については、例えば議会だよりの委託料を見直していくば、報酬増加分の予算が捻出される。委託料が減るということは、議員の作業が増え活動量が増える。それもまた議員報酬を上げる一つの根拠になるのではないか。

・上げる方向でよい。根拠的なことで、議員として町民のために何をどうしたらいいのかということも含めて議員活動を見直し、総予算の1%をあまり超えない方がよいと思うが、見直しの中で活動量を増やしていく。より多くの報酬ができるだけ見直して上げるために、報酬の財源を考えながら議員活動を見直すには、どうしたらよいのか考えていくべきと思った。

・町の総予算の1%ということを考えた場合に、寄居町の税収を考えたときに、「さあ上げよう」「1%でよいのではないか」という形になったとしても、町の税金は限られている。その辺のところから、どうなのかわからない部分である。若い世代の議員を増やす意味で、報酬を上げるというのは一助になると思っている。ただ、町民への理解が必要っていうことも挙げられていたが、町民に「来年度、議員報酬上げます」と言ったときに、それがどの程度伝わるのか不安なところもある。根拠を示しても町民はそうは捉えないのではないかとかいう感じがする。だから、1名程度の議員の定数を減らすこと、例えば町民は「議員1名減ったので、報酬が上がった」ということは「そうか」ということになる。議会の費用は変わらないという形にもなってくる。細かいことを町民は我々ほど理解できないっていうのが現状だと思う。だから、その辺のところを払拭できるようなことも考えていく必要があると思った。

- ・総予算の1%前後で
- ・上げることには賛成。金額は5万円くらいで。
- ・報酬を上げることは賛成であるが、議員は家業がある、ある程度経済的に余裕があり、町のために立候補されている方が多いような印象であった。若い方がもし議員になるとなると、仕事をやめて立候補しなくてはならない。でも、報酬は全員が同じに上げなくてはならないが、給与の場合は子育て世代に扶養の手当がつくが、報酬は手当的なものにつけることができるかわからないが、もし手当的なものがつけられるのであれば上げられるのではないか。そこができるものなのかわからない。
- ・議員の報酬を上げることに根拠も必要だけども、報酬が多くない限り、良い議員も立候補しないし、質の高い議員は集まらない。議員は行政の仕事を監査することが仕事ではないか。そこを根拠として上げる。いくら上げるかはわからないが、上げない限り寄居町の未来がないと感じる。議員を上げたとすれば、議長、副議長の報酬も上がって当然なのかなと思う。
- ・報酬を上げるとなったら、議員が何をしてくれているのかが気になるところではあるので、そういうのが、わかりやすいのは議員と町民が会える機会を増やすことが一番よいと思う。直接話してくれる方が、こちらも理解がしやすい。議員がこう動いている、動いてくれているというのが、わかりやすく伝えられるのが対話だと思ってるので、そういう会う機会をどんどん増やして、議員がここにも出席していた、ここでも出席していたというふうになると、報酬上げて頑張ってくれているというのがわかりやすいと思う。
- ・報酬を上げることはよい。やはり若手の人たちが一番苦しいと思う。そこに目をつけるとなると、どうしても手当という形がよいと思うが、前にあった手当を復活することはできないか。児童手当とか扶養手当とか、そういうものが充実してれば、子育てする若い人たちも非常にありがたい話だと思う。その他にもいろいろ手当を一層充実させるのも、若手のためによいと思う。
- ・金額についてもっと上げるべきだと思っている。1%を議論するのはナンセンスだと思っていた、予算の許す範囲で上げたらよいと思う。見るべきことはどれだけのことをやってくれているかということであって、それができていなければ、次の選挙のときに一票なくなるわけだから、そういう方向で考えていった方がよいと思う。
- ・ある程度の収入がなければ、よい議員が集まらないということは事実だと思う。1%枠という一応の基準を作り、その範囲で上げるということは必要なことかなと話を聞いて感じた。これを町民に発表するときは、上げるという根拠と、これから期待されることをしっかりと説明しないと、ただお金が上がった、ただそれだけになってしまふ恐れがある。上げるた

めに何が削減されたか、合理化されたかということも併せて考えていかないと難しいと思った。

- ・上げることには賛成である。一番住民の理解と納得を得ることがとても重要だと思う。
- ・町の税収がどうなのかなと、この先どうなるかなっていうふうに感じた。やはり報酬は上げた方がいいと思う。一番最初に23万円と聞いたとき、ちょっとびっくりした。そんなに安いのか。報酬手当は総予算の1%の枠の中で上げていく、それには何を節約できるか、活動費、委託料という話も出たが、きっちり精査して、この中で上げていくっていうことを、住民の皆さんのが理解が得られなければマイナスのイメージになってしまふので、そのところをしっかり伝えていきながら、やはり若い人たちのためにも上げる。何とか工夫して、住民の皆さんに理解していただいて、やっていただければと感じた。

【議員定数について】

- ・大学の先生の講演を聞いたときに、やはり定数は動かさないほうがよいという意見も出てたので、様々な精査しながら、工夫しながらどの程度金額にするかは検討していただき、とりあえず定数はそのまままでよいと思う。
- ・16名はギリギリだと思う。困ることを町民が議員に相談すると思うが、16人から少なくなるとそういった機会が失われることにも繋がる。
- ・何か削減しないと。手当だけ上げるのは町民は納得がいかない、定数はそのままでなっているが、何か削減しないと。

【委員会として】

- ・議員報酬についてはある程度の金額で上げるっていう方向でこの委員会としては提案する。ある程度予算内（総予算の1%前後）というなかで中で、いくつか削減の項目が出たが、その辺は今後の委員会や様々な会議の中で、議員に精査してもらいながら、調整してもらうということをお願いする。
- ・議員定数に関しては、現状維持で頑張っていただく。活動の中で町民との接点をより今まで以上にとってもらい、町民にいろんな意味で理解をしていただくという場を増やすということを、この会の希望とする。
- ・金額に関しては、議会で考えてもらう。